

マーティン・デネワル パブリック・トーク

「私たちが共有する未来 フェスティバル・テアターフォルメンのアジア演劇の今日と明日」

開催日時：2015年11月11日（水） 19:00-20:30

開催場所：森下スタジオ

はじめに

本日は「私たちの共通の未来」というテーマでお話いたします。来年、2016年のフェスティバルでは、日本を含むアジアの作品を上演する予定ですが、同じく「私たちの共通の未来」をそのテーマにしたいと考えています。そこで、本日はアジアの作品を上演する可能性と課題についてお話いたします。また、ドイツでの演劇の状況や文化機関についても触れていきたいと思っております。ご質問などがございましたら、いつでもお声がけください。

ヨーロッパの文化機関の活動について

まず始めに、ヨーロッパの文化機関がどのように活動をしているのかを、これまでの私の経験をもとにお話いたします。こちらのリストは私が過去に働いた文化機関のリストです。最初の2つの文化機関は演劇のフェスティバルです。次に、スイスのチューリッヒの市立劇場、そして、ヨーロッパで最大級のフェスティバルであるザルツブルク音楽祭と続きます。それから、ドイツのアーティストから常に注目されている劇場の一つであるキュンストラーハウス・ムーンントウルムです。キュンストラーハウス・ムーンントウルムは「Co-production house」と呼ばれている劇場で、専属の劇団や俳優を持たず、国内外からアーティストを招聘し、また、地元のアーティストと共同製作をしています。最後に、現在、私が働いている「フェスティバル・テアターフォルメン」で、後程、詳しくお話したいと思っております。

今、お話しした文化機関を、「革新性 (innovation)」と「不安定さ (precarious)」という視点から図式化しました。縦軸では文化機関の不安定さの度合いを示していて、上位に位置する機関ほど危機的な状況にあることを意味しています。また、横軸では文化機関の革新性の度合いを示していますが、右側に位置する機関ほど革新性が高いことを意味しています。これは私の主観によって作成したのですが、文化機関を率いる立場として「革新性」と「不安定さ」という2つの視点はとても重要なことだと考えています。

例えば、一番上にあるブダペストのKortárs Drámafesztiválは毎年、助成金を申請しなければならない機関で、常に資金が不足しています。安定した助成を受けられない状況にあるため、革新的な事業を実施できません。その下のザルツブルク音楽祭は潤沢な予算がある機関ですが、組織体制が固定化されているため、芸術的な新しい挑戦ができません。

社会における「不安定さ」

私は「不安定さ」という言葉とそれが文化機関にどのような意味を持つのかにとても関心があります。「不安定さ」とは、誰かに依存し、その存在が危うい状況だと思いますが、ドイツの政治哲学者、イザベル・ローライは「不安定さ」という概念について詳しく研究を行い、その概念が生活に与える影響を示しています。

イザベルによると、「不安定さ」には3つの次元があり、それぞれに名称が付けられています。まず、「precariousness」ですが、それは私たちが生まれながらにして誰かの支援がないと生きていけないという事実が表されています。人類が存在している限りはそのような状況だと思えます。

しかしながら、社会には別の次元で、権力に関係する構造的な不平等が存在します。それをイザベルは「precarity」と呼んでいます。一部の人には権力がありますが、それ以外の人には権力がないということです。社会が生まれると、そのような状況になると思えます。

それから、「precarization」と呼ばれる現代社会で特有の不安定さが存在します。それは常に不安定と感じる状況です。社会保障が機能せず、例えば、労働組合がその役割を果たさないため、自分の身は自分で守ることが期待される状況です。皆さんはどうか分かりませんが、私自身も人生の中で感じることがあります。ドイツではアーティストにとっても深い関係があることではないかと思えます。プロジェクト毎に仕事をするアーティストが多く、常に新しい仕事や助成金を見つけなければいけないという不安を抱えているからです。

イザベルによると、人生を自由に生きたいと思う人が増えた結果、現代に生きる私たちは自己防衛を始め、弱い立場に置かれていることを認めず、誰かに頼って生きてはいないフリをしています。人生は自由で、自分で決められるものだと考える人は、表面的な付き合いや関係が一番都合の良いことだと考えます。この点については、後程、もう少しお話したいと思います。

フェスティバル・テアターフォルメンについて

それでは、フェスティバル・テアターフォルメンについてお話いたします。フェスティバル・テアターフォルメンは1989年に始まった現代演劇のフェスティバルです。2つの州立劇場の共同事業で、私が知る限りはこのような組織体制のフェスティバルは他にはないと思えます。偶数年にはブラウンシュバイクで開催し、奇数年にはハノーファーで開催しています。7つの資金提供者、2つの劇場、2つの都市、2つの財団が関わっているフェスティバルです。

ドイツの地図をお見せいたします。ブラウンシュバイク、ハノーファー、ベルリンがありますが、それぞれが電車で1時間半ぐらいの距離にあります。主に5人の常勤スタッフのチームで仕事をしていますが、フェスティバル期間中には、もっと多くのスタッフが働いています。これまでに日本の作品を3作品、上演しましたが、それ以外に上演したアジアからの作品はありません。

ご参加していただいている方々の中にアーティストもいらっしゃるということで、一言、申し上げたいと思います。ドイツで演劇作品を上演する可能性についてですが、まず、演劇祭がその一つだと思います。そして、とても稀なケースですが、専属の劇団や俳優を持つ市立や州立劇場が海外の演出家を招聘して、作品を創作するケースもあります。近年では、タニクロウさんが招聘されました。そして、先程お話した「Co-production house」が海外のアーティストを招聘することにも関心を持っています。予算は少ないですが、海外のアーティストを招聘することに積極的です。もしも、ご関心がありましたら、後程、詳しくお話することができます。

来年のフェスティバルでは、「私たちの共通の未来」をテーマとし、東京、ソウル、シンガポール、バンコク、クアラルンプールの演劇作品を紹介する予定です。このような規模でアジア圏の作品を紹介するのは、ドイツでは初めてではないかと思えます。

7つの演劇作品と1人の美術家を紹介し、その他にはシンポジウムやマスター・クラスなどを開催します。それから、若手のアーティストを招待するフェローシップ・プログラムがあります。また、昨年

から、「読書コーナー」という企画を始めました。アーティストがキュレーションする小さな図書館です。アーティストから提案を受けて、本を購入し、どのアーティストが選んだ本なのかが分かるようにシールを貼っています。それから、参加アーティストの国を対象とした映像作品を上映しています。

また、観客を対象としたウォームアップというプログラムがあります。オペラを見る前に歌を歌うと、オペラの聞こえ方が変わるという科学的な研究結果をもとにしたプログラムです。キュンストラーハウス・ムーンツウムではダンスの公演を見る前に、体を動かすと、どのような変化が起きるのかという実験を始めていて、科学的には証明されていませんが、明らかに変化があります。フェスティバルでは、演出家や振付家、俳優等に依頼し、開演前に約20分間のワークショップを行っています。

アジアの演劇を取り上げる理由

なぜ、アジアの演劇を紹介したいのかと質問されることが多いので、その説明をしたいと思います。個人的な興味もありますが、まず、クラスタリングの鎖効果¹として、日本に演劇作品を観に行くと、日本の演劇だけでなくソウルやその他の都市の演劇作品について話を聞く機会があって、アジアの演劇の情報を広く知ることができます。それから、フェスティバルのプログラムを考える際にメディアの注目も意識しています。そして、作品について観客の議論を活性化することが重要だと考えていますが、アジアの中でいくつか比較できる作品があることで観客がそれらの作品について議論しやすくなると思います。

現代という観点からはフェスティバルのテーマには特別な意味があります。アジアの大都市の発展は社会構造や人々の生活に影響を与えていると思いますが、それは私たちにとっても関心のあることです。また、各都市での演劇作品の多様性について知ってもらいたいと思っています。

アジアから遠く離れた外国人にはとてもハードルが高いことだと言われますが、演劇文化は世界で共通する点があると思います。具体的なプログラムは4月に発表する予定です。

海外の作品を上演する課題

一方で、海外から作品を上演するということには課題があります。例えば、作品の翻訳という課題です。そして、それを字幕で伝えるべきなのか、オーディオガイドで伝えるべきなのかという問題もあります。そして、作品で取り上げる文化をどのように伝えるのかということも課題です。

また、組織文化の違いも課題の一つで、例えば、プロデュースの方法や劇団内の上下関係など、ドイツとは異なる組織文化があると思います。それから、個人の問題というのも課題ですが、それは他の課題に比べて、簡単に解決することができません。

アーティスト、フェスティバルの関係者、また、ある意味で観客がこれらの課題の影響を受けやすいと思いますが、それは不安定な状況を作り出しているとも言えると思います。つまり、これらの課題が「不安定さ」の原因ということです。

¹ クラスタにオブジェクトが追加されてクラスタ形成が行われる状態

フェスティバルの役割

そういった意味では、フェスティバルの役割は安全な環境を提供することです。先程、お話しした3つの「不安定さ」について戻りたいと思います。まず、どうすることもできない不安定さというのがあり、不平等な構造や権力の問題があります。そして、常に不安に思う気持ちですが、それは自己防衛を促し、安全を確保する行動を促します。しかし、その安全を確保しようとする行動は、自己を他者から引き離すことでもあります。そのため、私はフェスティバルの役割として新しい考え方を提案したいと思います。それは「餅」です。

安全なフェスティバルよりも、お餅のように粘りのあるフェスティバルが面白いと思います。いかなる手段をもってしても、アーティストや観客を守る方法はありません。そのため、問題への意識を高める必要があります。私たちは情報を提供しますが、観客の自己意識を高めてもらい、その情報を自分で見極めてもらいたいと思っています。それはフェスティバルが発信することに頼らないで欲しいということでもあります。一元的な考えというのは危険ですので、多様な意見や情報ソースが必要です。先程、お話ししたシンポジウムやマスター・クラス、ウォームアップなどですが、それらが互いに頼らせるものを生み出します。これによって、自己防衛をするのではなく、弱さを共有する感覚を持つことを促したいと思います。そして、最終的にはフェスティバルがみんなで何かをつくるものになります。それが私の考える「私たちの共通する未来」です。

(以下、質疑応答略)